

瀧谷山報

通
巻

188

号

TAKIDANI
SANPOU

令和7年11月発行

修正会

新春 交通安全祈願

4

5

瀧谷山報

令和7年11月発行

通巻188号

発行所

瀧谷不動明王寺

〒584-0058
電話 072-1134-0028

富田林市

振替 00930517704

彼方 1762

17704

●●
●●
●●

●●
●●
●●

●●
●●
●●

今後の 当山行事予定

納め不動 12月28日

○御本尊開扉大護摩供 本堂

午前 6時 10時 11時30分

午後 1時30分 3時

○瀧不動堂護摩供 瀧不動堂

午前 9時頃～午後 3時頃

しゅ しょう え
修正会 元旦から1月7日

○御本尊開扉大護摩供 本堂

元日	午 前							午 後						
	0 時	1時30分	7 時	9時30分	—	10時30分	11時30分	1 時	—	2 時	—	3 時	—	4 時
2日・3日	—	—	7 時	9時30分	—	10時30分	11時30分	1 時	—	2 時	—	3 時	—	4 時
4日	—	—	7 時	9時30分	—	10時30分	11時30分	—	1時30分	—	2時30分	—	3時30分	—
5日・6日・7日	—	—	7 時	—	10 時	—	11時30分	—	1時30分	—	—	3 時	—	—

○新春 交通安全祈願

元日	午前 0時～午前 1時30分	午前 7時～午後 5時	明王殿
2日～5日	午前 7時～午後 4時30分	明王殿	
6日・7日	午前 9時～午後 4時	法楽殿	(本堂横)

○瀧不動堂護摩供 瀧不動堂

元旦～3日 午前 9時頃～午後 3時頃 (瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)

日々のお護摩祈祷 (元旦～2月15日) 本堂

◇ 日 曜 日 午前 7時 9時30分 10時30分 11時30分 午後 1時30分 3時

◇ 平日 土 祝 午前 7時 10時 11時30分 午後 1時30分 3時

2月16日以降は平日午後のお護摩祈祷はありません。

交通安全祈願 (車のご祈祷) 法楽殿

◇ 午前 9時～午後 4時 毎時0分・30分

毎月第4日曜日は交通安全のご祈祷はありません。

月例祭 (毎月第4日曜日)

◇ 御本尊開扉大護摩供 本堂 午前 6時 10時 11時30分 午後 1時30分 3時

◇ 瀧不動堂護摩供 瀧不動堂 午前 9時～午後 2時頃 (瀧不動堂山伏に直接お尋ねください)

月例祭は交通安全のご祈祷はありません。

行事の予定は変更になる場合がございます。

詳しくは瀧谷山公式ホームページにて随時ご案内いたしますので、

来山前に今一度ご確認ください。



東アジアの一角に位置するタイ国に出かけたことがある。わが国同様に仏教寺院が随所に建ち並び、この国もまた仏教を尊ぶことによって、社会も人々も支えられている事実を知ることができる。

お寺の参拝に向かうと、門前にはお供え用の花々が店先に並んでいる。しかもその花の代表格は、立派なつぼみを膨らませた「蓮」である。日本でも蓮池などにそのうるわしい姿を見るものの、山積みされた大量の切り花としての蓮はそうそう見かけない。やはり蓮の原産は東南アジアからインドにかけての地域なのだろうかと思わせる。

みずみずしいばかりの蓮の花を買い求めて、仏前に献花する。献じられる蓮はどれも今から開き始めようとするものばかり。若々しい薄緑色のつぼみの内には、ベールのように包まれた鮮やかな花の色が秘められている。

まさに開き咲き始めんとするふつくらとした蓮華を

ギリシャ神話を起源とする英語のロータスは、また別の文化圏のお話になる。

さて、自性清浄たる真理を最も深く洞察しておられるのが、かの観音さまである。観自在菩薩とも観世音とも呼ばれる観音さまの、その名に冠する「観」は観察の意である。「かんさつ」は一般に通用する読み方だが、「かんざつ」と読むのが仏教語としては正しい。その観音さまは何もかもが清らかなものであるという徹頭徹尾の洞察力をお持ちで、それこそが観察力の本領、観音妙智力くんのんみょうちりきと称される仏徳といえるよう。

その仏徳がまばゆいほどにありがたいから、われわれ衆生は観音さまに「どうか私たちを深く観察してください」と至心に念ずる。やがてそのご利益を蒙る奇瑞に遭えば、観音さまのようにやわらかい心と慈しみに満ちた眼差しを具える道がひらける。自性清浄心の獲得、仏性の顕現といわれるものである。

観音さまの仏徳は広大無辺であるから、日本国内にはご靈験あらたかな観音さまの寺々が各地に実在する。近畿

「未敷蓮華」と呼ぶ。この形状の蓮華を仏教では殊に重用し、仏菩薩の持物や印相、あるいは深遠な真理性を意味し、瞑想にも援用するなどさまざまな場面で未敷蓮華は仏教の本質を象徴するものとなっている。本年話題になった関西万博のインド館には大きな合掌のモニュメントが据えられたが、あれもまた未敷蓮華の象徴に思えた。

泥中の地下茎からぐつと芽を伸ばし、葉は大ぶりで円い。この葉には強い撥水作用がみられ葉上に澄明な水玉ができる。その撥水効果は蓮全体にゆきわたるため、蓮の花は泥に染まることなくして咲き誇る。この清浄な光景を種々の経典は描写し、その描写はあらゆる事象は本来清らかなもの「自性清浄」であること、すべての生きとし生けるものには「仏性」や「仏心」がおのずと宿っているという見解を導くものとなった。梵語のパドマ、あるいはブンダリーカと名づけられる蓮華はそのような由来を持つ。対してその実を食すと俗世の苦しみ忘れられる効能を有するという

地方を中心に構成される「西国三十三観音霊場」はその代表、大阪府内には葛井寺（藤井寺市）と施福寺（和泉市）の古刹が霊場に属す。当山境内にもこれに準じた巡拝路があり、多種多様で素朴な石仏群にも出会える。

最後に瀧谷山の観音さまに触れておきたい。観音堂に奉安される観音さまは、秀麗の一語に尽きる尊像。精緻な截金文様が自性清浄の高徳さを一層輝かせている。この御仏はかつて彼方の地に在った寺のご本尊さま、時代の趨勢によつて御遷座された。所在したお寺の名は、蓮華心寺という。いかにも観音さまの御名にふさわしい美しい響きを持つ。

今年もほどなく歳末を迎える。お不動さまにこれまでの感謝とこれからの願いを込め、蓮のつぼみを捧げるように参拝し、あわせてこの観音さまにも懇ろにお参りされることをお勧めしたい。きつとあなたの中に秘蔵される蓮華のつぼみが、ぐつと膨らむに相違ない。

修正会

令和八年元日～一月七日

御本尊開扉大護摩供 厳修



新春交通安全祈願

修正会期間中は、当山所属の山伏出仕のもと交通安全祈願を盛大にお勤めしております。期間中は、修験者により一台一台お車加持が行われます。

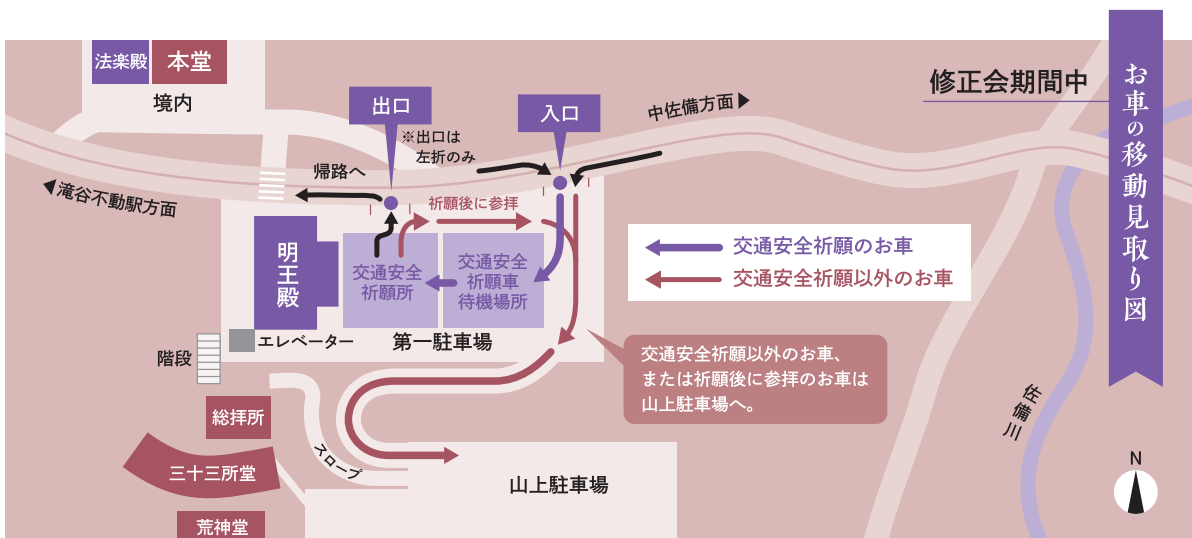
新年の初めに、どうぞ一年の交通安全をお祈りください。

- ◆ 祈禱場所
元日～1月5日まで 明王殿
1月6日以降 法楽殿
- ◆ ご祈禱時刻
裏表紙に記載
- ◆ ご祈禱料 …1台 5,000円



◆ お護摩祈禱の受付について

本堂はすべて椅子席で、お施主様・お連れ様含め1回ごとに約100名までお上がりいただけます。混雑時はお待ちいただく場合があります。受付順にご案内しますので、お早めに受付をお済ませください。時間の指定はお受けしかねますので、ご了承ください。
午前9時30分の回と、午後3時以降の回は、比較的余裕があります。



- ◆ お護摩祈禱時刻
裏表紙に記載
- ◆ ご祈禱料
5,000円より
- ◆ 赤札守の授与
元日～1月3日
お護摩祈禱をお参りの方とそのお連れ様



瀧谷山では、来たる令和8年元日から1月7日まで修正会をお勤めします。修正会では、年頭にあたり世界平和、五穀成就、萬民富樂を祈念し、あわせてご参詣皆様のお願いを祈願いたします。

期間中は、御本尊の御厨子が開扉され、お護摩祈禱を普段より多く、盛大にお勤めしております。また正月三ヶ日に限り、お護摩祈禱をお参りの方とそのお連れ様には「開運赤札守」をお渡ししております。一年の家内安全、厄除開運、社運隆昌、商売繁盛などをご祈願なさって、新たな気持ちで新年をお迎えください。

なお、本堂は伝統建築のため、冬場は冷え込みます。暖かい服装でお参りください。



元日から1月3日まで、瀧不動堂では当山所属の山伏により護摩供が勤められます。添え護摩木をお供えの方は、修験者による宝剣加持が受けられ、護摩札をお渡しいたします。

- ◆護摩祈祷時刻 裏表紙に記載
- ◆添え護摩木 1本300円
- ◆護摩札と御幣のお渡し
添え護摩木を1本お供えすると黄色い護摩札を1枚お渡し、黄色い護摩札を36枚で御幣1体と交換〔二願不動堂受付にて交換〕。

新春の縁起物・御朱印のご案内



迎春期間中（2月15日まで）、令和8年新春の縁起物を授与しております。熊手、矢守等の縁起物や、龍の神さまである荒神さまのお札、家中を守護してくださるお不動さまの護摩札等、縁起物を掛け替え、新しいお札に手を合わせると新年を実感できるものです。どうぞ期間中にお受けください。
新春の縁起物は納め不動の日（12月28日）より準備しております。

新年護摩は修正会期間中、毎朝お勤めするお預かり祈祷です。無病息災、身体健全、開運招福等、紙札に一体一体お願い事とお名前を書いてお勤めします。お札は修正会終了後お渡しいたします。

- ◆締切 12月20日
- ◆お申込み方法
同封の用紙にご記入の上、郵送または寺務所までお持ちください。
- ◆祈祷料 1体2000円
- ◆お札のお渡し
郵送の方は1月10日以降、寺務所で受け取りの方は1月8日以降。



- ◆授与期間 12月28日～2月15日
- ◆主な縁起物 熊手 矢守 えとみくじ 護摩札 三宝荒神札 等



- ◆授与期間 元旦～1月7日



古く日本には、往く年の感謝と来る年の祈りを込め、新年に神仏にお酒をお供えし、お下がりのお酒を飲むことで利益をいただくという習慣がありました。

瀧谷山でお供えする聖酒は、先々代住職の命名による「不動力」というお酒で、一本一本お名前を浄書した短冊をつけ、修正会のあいだ本堂にお供えいたします。お供えの方には、お下がりとして不動力1合瓶をお渡しいたします。

- ◆お申込み方法
新年護摩申込用紙裏面通信欄に記入の上、郵送または寺務所までお持ちください。
- ◆奉納料 1本3500円
- ◆お下がり 不動力1合瓶
（郵送申込の方には、後日寺務所で受領書と引き換えにお渡しいたします）



新年よろこぶ茶 お接待のご案内

正月三ヶ日、「新年よろこぶ茶」と称し、お参りの皆様に、こぶ茶のお接待を行っております。心身を温める新年の縁起物として、ぜひ皆様でお楽しみください。

- ◆日時 元旦～1月3日
午前9時頃～午後5時頃 境内
- ◆以前行つておりました客殿でのお屠蘇の接待は、混雑緩和のため、中止とさせていただきます。

法話―お不動様からいただく、生きぬく力―③

千葉県館山市 總持院御山主 寺田信彦師
（令和6年4月18日奉讃会婦人部総会にて）

（前回の続き）

生と死が実は同時にある、ということが、仏様の教えなのです。一番わかりやすいヒントが孟蘭盆会という行事です。孟蘭盆、お盆です。インドのことばでは、ウランバナ。お盆は亡くなった人の魂が帰ってくるとうよく言いますね。お盆についてお坊さんが説明するときは、お釈迦様の弟子の目連尊者の亡くなったお母さんが餓鬼道に落ちて、地獄の苦しみ、逆さ吊りの苦しみに遭っていたことがウランバナの語源であると言われていますが、どうも逆さ吊りの苦しみというのは違訳らしいです。

ウランバナというのは魂という意味です。どういう話かというと、お盆の時にする話ですが、お釈迦様の十大弟子の目連さんは、千里眼の持ち主であの世まで見えました。お母さまが亡くなった時に千里眼で見えたら、餓鬼道に落ちて苦しんでいました。大事なお母さまを助けたくってお釈迦様に相談しました。夏安居の頃、外に出ているお坊さんたちは中に入ってくるから、お坊さんたちにお願ひして、拜んでもらったらいだろう。と言われ供養しました。その後また千里眼で見たら、餓鬼道から救われていたという話があります。

『仏説孟蘭盆経』という中国のお経に象徴的な話があります。人は誰でもお母さんから生まれます。そして人は誰でも餓鬼道に落ちることがあります。欲しい欲しいと思ったら命がけになってそれしか見えなくなることはありませんか。デパートで見た洋服の事、

『百万回生きた猫』という童話があります。ある雄猫が何回も死に生き返ります。でもある時雌猫に出会い幸せな時を過ごしますが、雌猫が死んでしまったとき、その雄猫は泣いて泣いて泣いて徹底的に泣き悲しみました。そして悲しんで悲しんでそのまま息を引き取り、もう生き返らなかつた。必死になって生ききつたらあの世へ行つてちゃんと生きている。生ききらないと未練が残つてしまふ。と佐野洋子さんの童話にあります。

平家物語の最後、壇ノ浦のシーンで、平知盛が、まわりの皆死んでしまい、もう駄目だと思い、鎧二枚を着てドボンと飛び込むというときに、

見るべき程の事をば見つ
今はただ自害せん

見るものは全部見た、もういいという事です。どういうことかという、この世の事は見たから、もうあの世しか見えないよ、彼岸しか見えないよ。ここで彼岸と直結してきます。この世とあの世のパスロードが出来ています。そのような生き方をしないと、私たちは人生を手厚く生きられません。

最後にこの話をします。上求菩提、下化衆生というお不動様のご誓願²。お不動様は慈悲と智慧が必ずワンセットです。その下には何があるかというと、大盤石の上に立つ金剛石です。揺るがない気持ちがあり、その上に慈悲と智慧があります。この発想はすごいんです。この慈悲と智慧は揺るがないぞという覚悟、それが実は大事なのです。

私たちがお不動様にお祈りをする時に、自分の気持ちは揺るがないよ、俺はやるぞ、という決死の覚悟。その覚悟をもつてやりきった。そのような揺るがない覚悟を人生のどこかでしていかないと、悔いを

彼氏彼女の事、お金の事。それしか目に入らないことが有るのですよ。そういう世界を餓鬼道と言います。人は誰でも餓鬼道に落ちる可能性はあります。

ではそういう時に救い出す手は何かというと、誰かの為に何かをする。お母さんの為に供養をする。つまりこちらから与えるという事です。欲しい、欲しいは奪う。奪うよりも与えることの方が良いのではないかと発想の転換をする。お年玉など皆さんは与える立場です。ありがとうと言われたら嬉しいではないですか。能登の大震災でも、ボランティアで一生懸命自分の力を与える。自分の力を与えるというのは奪うよりも良いことではないか。そういうことが『仏説孟蘭盆経』に出てきます。実は聖徳太子様は一番初めに孟蘭盆会を宮中で行つた方です。皆様方もお盆になったら今のこの言葉を思い出していただいて、奪うよりも与えるのだな。与える方が楽しいよな。と思つていただけたら有難いです。

そして、我々の心の中で、奪う、与える、仏さんの世界、あの世の世界、それが交互に、というか同時並行になる。これは、右大将道綱が「光る君へ」に出てきました。その母、藤原道綱母。道綱母は藤原兼家の彼女である。兼家には正妻がいますが、道綱母が彼女である。兼家が自分のところに帰つてこないもので、恨んでいる歌が百人一首にあった。その道綱の母が、『蜻蛉日記』を書いています。その『蜻蛉日記』の中でお母さんが亡くなった時に、

残して死んでいくことになります。悔いを残して死んでいきたくないじゃないですか。生ききつた。もう充分だと死にたいじゃないですか。その気持ちはどこから出るかというと、時間と空間を超えた祈る気持ちです。それが今は医学でも見直されています。近代の医学で説明がつかないのに治つてしまったよ。医師はたまたまだと言うかもしれないがそれは違います。治つた事例がいくつもあるのに何故ということを今の医師は研究していません。それは迷信ですか？違います。それはやはり、人間界には人知の計り知れないものがある。祈りの気持ち、治ろうとする気持ち、言い知れない力があるのです。そこに気づいています。心と身は一緒だということを、アンドルー・ワイルというアメリカの医師が言っています。

瀧谷不動尊のお寺に入つてくるとき、参道を抜けると拓け右手に塔が見えます。そうすると、ここは靈地だ。なんとなくパワーをもらえるという気持ちになります。高野山も同じです。それなりのところにはそれなりのパワーが宿ります。それが人知を超えたパワーとなつて、私たちに生きる力を与えてくれるのです。そのようなことについて思いを致さないと、そんなの迷信だろうと思つていたら、大事なものを見落としてしまいます。ちゃんと仏さんを信じて祈るという事。そのような生き方をしないとダメなのです。だつて祈りですと続いているからです。皆さまそうでしょう。この子が大きくなるまでは、とか、なんとかなるまでは絶対これやろうとか。祈りの毎日でしょう。生々の祈りの毎日を過ごす。それが人生をより深く豊かに生きるパワーになるのです。その中に人知を超えたものを信じ切ること、それが実は大事な事です。迷信でもない。人間というのはそのような霊的なものを持っているし、与えられています。それが

蓮葉の 玉となるらむ 結ぶにも
袖ぬれまする今朝の露かな

と詠んだ歌が有ります。母の四十九日に、お母さんの魂は今頃蓮の葉っぱの玉になっているのだろうな。「らむ」という推量の助動詞、現在推量を使っています。「今頃」と訳します。お坊さんにお経を読んでもらいい、仏縁を結んだけれど、お母さんを想ひ泣けて仕方ない。でも今頃は蓮の葉っぱの中で玉になっているのだろうな。それにしても泣けて仕方ない今朝だよな、という歌があります。この「今頃は」この世とあの世の世界が同時進行であるという感覚を持つということ、つまり、心の中でこの世もあの世も我々は常に行き来が出来ているよ。そうすると視点が広くなるのです。

例えば、皆様方がお祈りをする、お不動様にお願ひ事をする。このお願ひ事をするということは、時間と空間を超えたある世界にお願ひをしに行く。お不動様は必ずや私たちを見て助けてくださる。そういう力強さを感じれば、あの世、つまり次元の違う空間時間を超えることが出来て、その祈りは必ず通じるはずなのです。

そのような発想を持たないと、この世の中を豊かに生きていくことは出来ません。

だから例えば、あの世を見て生きていくというのは、今のこの世を、きちつと生ききつていく。そしてあの世とこの世があるから同時に行き来が出来る。

皆さまなのです。

言葉の力や祈る力、毎朝一生懸命唱える御真言は周りから見たら、何を意味不明なことを言っているのだと言われるかもしれませんが、それは違います。これは仏様の言葉なのです。仏様の言葉、そしてそのパワーをもらいながら祈ること、それは真実だから、時間と空間を超えます。B.C.500年、2500年前のピタゴラスの定理が今も通じるのは、それが真理だからです。アインシュタインの相対性理論は今、全宇宙に通用しています。それと同様に、真実は全宇宙に通用します。仏様の言葉は真実だから、時空を超えてきている事に私たちは気付かなければなりません。

祈りの中でそれに気づくと、それが神聖さの体験になるでしょう。するとすがすがしく生きる力になります。その生きる力、生きる力を与えてくださるのが、お不動様なのです。1200年の歴史あるお不動様はちよつとやそつとお不動様ではないのです。皆様それぞれが、そのお不動様とともにある。死んだら終わりだなんて決して考えないで、ご自身の祈り、ご自身の行いをもつて、少しでもより良い世の中にしてい。その決意をもつて生ききつていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

¹ インドでは、春から夏の雨季は外出が不便で、草木の若芽や昆虫を殺傷しやすいため、仏教教団では定住して集団生活し、外出を避けて修行に専念した。その期間を夏安居という。
² 仏や菩薩が、自身の全存在をかけて成し遂げようとする誓い。上求菩提・下化衆生は自らとあらゆる存在がともに悟りをひらくべく、あらゆる手立てを努めること。

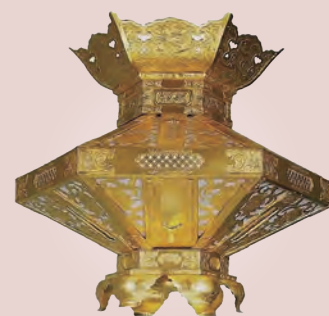
法楽殿改装工事 灯籠奉納のお願い

瀧谷不動尊では、令和11年の酉年御開扉に向けた記念事業の先駆けとして、交通安全祈願所である法楽殿の改装工事を行っております。この工事では、外装の改装とともに快適にお参りいただけるよう冷房設備を導入します。工事は順調に進んでおり、本号がお手元に届くころには、皆様にお参りいただける予定です。工事については、新年号で改めて報告を掲載いたします。

今回の工事にあわせ、60年に渡る使用で損傷の激しかった仏具の更新を行います。つきましては、法楽殿外陣を荘厳する吊灯籠について、下記の通りお施主様をお募りしたくお願いを申し上げます。金価格の高騰や職人の減少により、仏具は以前のように調達することが難しくなっております。皆様にはご多端の折誠に恐縮ながら、伏してお願いを申し上げます。

六角菱灯籠（3尺）

募集数 1基
200万円



六角高野型吊灯籠（7寸）

募集数 20基
50万円



灯籠には、それぞれ透かし彫りにてお施主様のお名前を刻印いたします。

猫足佛前吊灯籠につきましては、予定数に達し受付終了とさせていただきます。



お寺のごはん

21 やま道

材料

ごぼう 人参 さつま芋 あれば松茸（特別な時）
銀杏 時には蒲鉾やそうめん

作り方

- 一 ごぼうは少し長めの細い千切りにして、散り敷いた松葉にいたします。薄味に煮ます。
- 二 人参は3ミリ程の厚さに切って、大小の紅葉の型で抜いて煮ます。
- 三 さつま芋も3ミリ程の厚さに切ります。いちょうの葉の型に抜いて素揚げいたします。
- 四 銀杏は鬼皮、薄皮ともにむいて色よく塩ゆでいたします。
- 五 松茸は焼き松茸、もしくはさつとお味のついたお出汁にくぐらせて、適当な大きさに切ります。

もし松茸がない時やお惣菜にするときは、きのこ型の蒲鉾やしめじを用いたり、さつま芋を蒸して丸め、そうめん（1センチ5ミリ）をつけて油で揚げ、いが栗にして添えるなどすると、松茸のように気の張ったものではなく、秋の野の表現ができます。

食卓に
秋の彩りを♪



平たいお鉢にごぼうの松葉を全体に広く盛ります。

そのうえに人参でこさえた大小の紅葉の葉と、さつま芋のいちょうの葉を散らします。銀杏も散らします。数は盛り鉢の大きさや人数分によって変えます。

前に松茸を添えます。大きなお鉢に盛るなら、いが栗も添えてもいいかもしれません。